

クラゲの図案が登用された紙幣

Jellyfish appearing in the design of paper money

榎山嘉郎¹・牟田 理²・久保田 信³
Osamu MUTA・Yoshiro KASHIYAMA and Shin KUBOTA

これまでコインにクラゲの図案が登用された例（2001年にパラオより発行）を報告した（榎山嘉郎・久保田，2002）が、今回紹介する紙幣は、西インド諸島の1国、アンチグア・バブーダから1983年に発行された金箔紙幣30ドルで、152mm × 70mm の大きさである。その裏面の図案に、海面に浮かぶ6個体のカツオノエボシ *Physalia physalis* (Linnaeus, 1758) が描かれ、海中に垂れるそれらの触手附近に計7尾のエボシダイが見られる（図1）。この紙幣は12枚組の1枚で、残りのどの紙幣にも軟体動物、

環形動物、甲殻動物、棘皮動物、脊椎動物に属する様々な分類群の海洋動物が描かれている。付記になるが、前報（榎山嘉郎・久保田，2002）に類似させて、クラゲを含む図案のコイン（1ドルと5ドルの2種）が、2002年にもパラオより発行されている。

引用文献

榎山嘉郎・久保田 信. 2002: クラゲ、コインの図案に登場. うみうし通信, (35), 裏表紙.

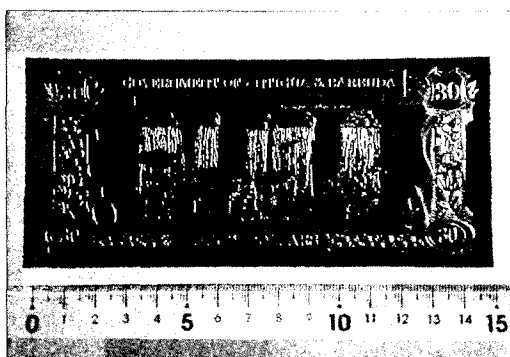


図1A 裏

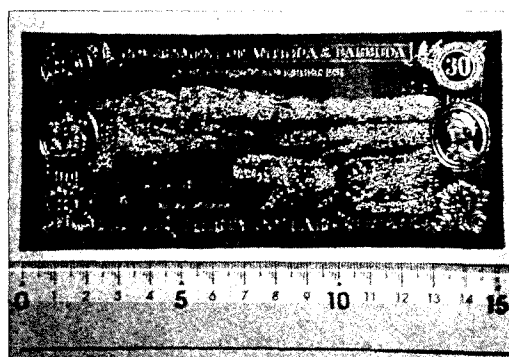


図1B 表

- 1 〒649-2201 西牟婁郡白浜町堅田 1143
 - 2 〒658-0051 神戸市東灘区住吉本町 2-1-18
 - 3 〒649-2211 西牟婁郡白浜町459
- 京都大学フィールド科学教育研究
センター瀬戸臨海実験所